

9-4 片持ちスラブの配筋

スラブの配筋は図示による。

(a)一般部

受け筋 D13 (L ≤ 1000)
D16 (L > 1000)
主筋 (図示)
配筋筋 (図示)
先端部補強筋 2-D13
連続スラブの補強筋*4

(b)先端に壁が付く場合

(c)出隅部

(1) 補強の配筋は図示による。
配筋方法は、下図による。
(2) 出隅受け部 (下図のハッチ部分) の配筋は図示による。

9-5 スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は図示による。図示がなければ下記による。

(a)スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合は、下図により開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で開口部を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (L=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。

(b)スラブ開口部の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

9-6 屋根スラブの補強筋

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

5-D10 (L=1500)

5-D10 (L=1500)

9-7 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとし、打継ぎを設ける場合の補強は、下記による。ただし、土間スラブとは、土 (捨コンクリート等の場合を含む) に接する構造スラブをいう。

中間部 端部

2-D16
3-D16
かつ間隔200mm以下

スラブ筋と同様、同材質、同間隔

a ≤ 300mm

9-8 土間コンクリートの補強筋

土間コンクリートの補強筋は図示による。なお、基礎梁との接合部は下図による。

土間コンクリート補強筋 重ね継手

(土間コンクリート補強筋の鉄筋径及び間隔に合せる)

a ≤ 300mm

10-1 階段の配筋

階段の配筋は図示による。図示がなければ下表による。階段の基準配筋は下図による。

10-1-1 片持ちスラブ形 (KA)

階段筋リスト (片持ちスラブ形)

設計条件: 積載荷重 3500N/m ² 片持ち先端、手摺自重考慮	符号	段ばな筋	踊場	スパン L (mm)
KA11	2-D13	150	D10, D13-200φ	L ≤ 1500
KA12	2-D16	150	D13-200φ	1500 < L ≤ 2000

(注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降す。
2. 踊場主筋、配筋筋の継手及び定着の長さは、9-1による。
3. 主筋径はD16以下とする。

10-1-2 二辺固定スラブ形 (KB)

階段筋リスト (二辺固定スラブ形)

設計条件: 積載荷重 3500N/m ² 手摺自重無視	符号	床版厚さ (t)	主筋	配筋筋 (踊場)	スパン L (mm)
KB11	180	D16-125φ	D13-200φ	上, 下端筋	4000 < L ≤ 5000
KB12	200	D16-100φ	D13-200φ	上, 下端筋	5000 < L ≤ 6000

10-1-1 片持ちスラブ形 (KA)

10-1-1 片持ちスラブ形 (KA)

階段筋リスト (片持ちスラブ形)

設計条件: 積載荷重 3500N/m ² 片持ち先端、手摺自重考慮	符号	段ばな筋	踊場	スパン L (mm)
KA11	2-D13	150	D10, D13-200φ	L ≤ 1500
KA12	2-D16	150	D13-200φ	1500 < L ≤ 2000

11-1 柱の打増し補強

柱の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、図示による。

200mm以下
200mm以下
200mm以下

打増し部分

(a) 1方向の打増し (70mm ≤ a, a1, a2 ≤ 200mmの場合)
(b) 2方向の打増し

11-2 梁の打増し補強

梁の打増し補強は、下図により、打増し幅が70mm以上200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、図示による。

打増し部分

(a) 下端の打増し (70mm ≤ a, a1, a2 ≤ 200mmの場合)
(b) 上端の打増し

11-3 壁の打増し補強

壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さaが50mm以上200mm以下に適用する。200mmを超える場合は図示による。

打増し部分

鉄筋はD10とし、間隔は200mm
縦筋はD10とし、間隔は縦筋と同じ

12-1 手すり及びバラベットの配筋

12-1 手すり及びバラベットの配筋

手すりの配筋

バラベットの配筋

h ≤ 1500

12-2 機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、下記による。

丸鋼の場合 ← 真形鉄筋の場合

種別	A種	B種	C種
部位			
フック筋	φ25又はD25	φ22又はD22	φ19又はD19
曲げ内法直径 (mm)	100	100	100
補強かんざし筋	2-D16		
補強鉄筋 (mm)	D16, L=900	D16, L=750	D16, L=600
吊上げ荷重 W (kN)	50 ≥ W > 30	30 ≥ W > 10	10 ≥ W
(ton)	5 ≥ W > 3	3 ≥ W > 1	1 ≥ W

(注) 丸鋼の材質は、SS400とする。

13-1 補強コンクリートブロック造

13-1-1 一般事項

下記に定める以外の事項は1~12による。

(a) 鉄筋は、ブロックの空洞部の中心部に配筋し、壁筋の上下端は、がりがよ、基礎等に定着する。なお、壁筋には継手を設けない。

(b) 壁筋は、壁端部鉄筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着又は直交壁の鉄筋に重ね継手とする。また、横筋は、縦筋との交差部を径0.8mm以上の鉄線で結束する。

(c) 壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックのフェイスシェルは、かぶり厚さには含まない。

(d) 鉄筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは40dとする。

13-1-2 各部の配筋

(a) 各部の配筋は、図示による。
(b) 図示がなければ交差部、端部 (開口部) の配筋は、下図による。

14-1 コンクリートブロック帳壁

14-1-1 一般事項

下記に定める事項は一般帳壁に適用する。

(a) 主筋は、ブロックの空洞部の中心部に配筋する。

(b) 壁筋は、壁端部鉄筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着又は直交壁の鉄筋に重ね継手とする。

(c) 配筋筋の重ね継手長さは45d (フック付きの場合は30d) とし、定着長さは下記による。

(1) 主筋・配筋筋または開口部補強を主体構造のコンクリートに定着する場合、主体構造のコンクリート設計基準強度 $F_c \geq 21 \text{ N/mm}^2$ の場合は35d (フック付きの場合は25d) とする。
(2) (1)以外の定着長さは40d (フック付きの場合は30d) とする。

(d) 鉄筋のかぶり厚さの最小値は20mmとする。ただし、ブロックのフェイスシェルは、かぶり厚さには含まない。

(e) 一般帳壁のブロック積高は、下記による。

ブロック厚さ	ブロック積高さ
120	3000
150	3500

14-1-2 各部の配筋

(a) 一般帳壁の配筋は図示による。ただし、図示がなければ下表による。

一般帳壁の配筋			
縦筋	横筋	開口部補強筋 (縦筋)	端部補強筋
D10-400φ	D10-400φ	1-D13	1-D13

(b) 帳壁の交差部、端部 (開口部) の配筋は、下図による。

(c) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。

(d) コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋は、図示による。
(2) 配筋は、下図による。

14-1 コンクリートブロック帳壁

14-1-1 一般事項

下記に定める事項は一般帳壁に適用する。

(a) 主筋は、ブロックの空洞部の中心部に配筋する。

(b) 壁筋は、壁端部鉄筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着又は直交壁の鉄筋に重ね継手とする。

(c) 配筋筋の重ね継手長さは45d (フック付きの場合は30d) とし、定着長さは下記による。

(1) 主筋・配筋筋または開口部補強を主体構造のコンクリートに定着する場合、主体構造のコンクリート設計基準強度 $F_c \geq 21 \text{ N/mm}^2$ の場合は35d (フック付きの場合は25d) とする。
(2) (1)以外の定着長さは40d (フック付きの場合は30d) とする。

(d) 鉄筋のかぶり厚さの最小値は20mmとする。ただし、ブロックのフェイスシェルは、かぶり厚さには含まない。

(e) 一般帳壁のブロック積高は、下記による。

ブロック厚さ	ブロック積高さ
120	3000
150	3500

14-1-2 各部の配筋

(a) 一般帳壁の配筋は図示による。ただし、図示がなければ下表による。

一般帳壁の配筋			
縦筋	横筋	開口部補強筋 (縦筋)	端部補強筋
D10-400φ	D10-400φ	1-D13	1-D13

(b) 帳壁の交差部、端部 (開口部) の配筋は、下図による。

(c) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。

(d) コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋は、図示による。
(2) 配筋は、下図による。

15 機械基礎の配筋

(a) 機械基礎 (室内)

W	L	H	鉄筋補強	コーナ筋	箇所数
			D10-200φ	D13	
			D10-200φ	D13	
			D10-200φ	D13	

(b) 機械基礎 (室外)

W	L	H	鉄筋補強	コーナ筋	箇所数
			D10-200φ	D13	
			D10-200φ	D13	
			D10-200φ	D13	

(注) アスファルト防水層にかかる面圧 ≤ 1.0 t/m² の場合に適用。

16 煙突の配筋

煙突の配筋は図示による。図示がなければ、下記による。

(a) 最上階床よりの突出長さが1.5m以下の場合

(b) 最上階床よりの突出長さが1.5mを超え、3m以下の場合

16 煙突の配筋

煙突の配筋は図示による。図示がなければ、下記による。

(a) 最上階床よりの突出長さが1.5m以下の場合

(b) 最上階床よりの突出長さが1.5mを超え、3m以下の場合

17 釜場の配筋

17 釜場の配筋

スラブ筋の1サイズアップ

スラブ筋の1サイズアップ

(注) 1. (イ) は耐圧スラブと同径・同間隔とする。

